

掲載号・キーワード・執筆者	内容
<p>その 21 (ニューズレター No.84 : H28.3.15 発行) 「環境影響評価」 伊賀屋 豊 (佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター 特命研究員 佐賀県交通政策部道路課)</p>	<p>環境影響評価とは、「事業の実施が環境に及ぼす影響について環境の構成要素に係る項目ごとに調査、予測及び評価を行うとともに、これらを行う過程においてその事業に係る環境の保全のための措置を検討し、この措置が講じられた場合における環境影響を総合的に評価すること」と定義されています。</p> <p>平成 11 年の環境影響評価法施行以降、この法律に基づいて行われた環境影響評価の約 1/3 が道路事業によるものです。有明海沿岸低平地域においても、有明海沿岸道路の 3 区間と佐賀唐津道路の 1 区間において、環境影響評価が行われています。それらの結果は、それぞれの環境影響評価書に記載され、縦覧というかたちで公表されましたが、そこには現地調査や文献調査で収集された環境の状態も記載されています。4 区間の環境影響評価で調査された区域を併せると、有明海沿岸道路に沿った東西約 30 km、佐賀唐津道路に沿った南北約 15 km に及ぶ範囲になります。これらの環境影響評価書を見れば、有明海沿岸低平地域における環境の一端を知ることができるといえます。</p>
<p>その 22 (ニューズレター No.85 : H28.6.23 発行) 「インドの低平地」 Sanaga Srinivasulu (佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター 客員教授)</p> <div data-bbox="145 1029 414 1316"> <p>Map of India with labels: ニューデリー, カッチ, ガンジス川, カルカッタ, ムンバイ, アラビア海, コーチン, ベンガル湾.</p> </div> <div data-bbox="414 1029 672 1189"> </div>	<p>インド亜大陸は 5,000 km におよぶ海岸線があり、東はベンガル湾、西はアラビア海に面しています。この海岸線には標高が 2 m 未満の低平地が多く存在し、ボンベイやカルカッタ、コーチンなどの要都市が低平地に接続されています。特に、東海岸の低平地周辺ではサイクロンにより、洪水や 4 m にも達する高潮が毎年発生しています。この影響は海岸から内陸へ 10～15 km の地点まで達します。西側にあるカッチ大湿地帯では、年間で 3～4 ヶ月間は海に沈む地域もあります。加えて、沖積河川ではモンスーンの季節になるとほぼ毎年広大な土地で洪水が発生し、その面積は 820 万ヘクタールにおよび、これは佐賀県の 33.5 倍の面積に匹敵します。また、ヴィンチャーカパトナムでは海岸の風化と侵食も大きな問題の一つです。</p> <p>このように低平地では自然的な要因による被害も発生していますが、都市化に伴う水質環境の劣化や人口過密による水不足も発生しています。特に人口に関わる問題は大きく、インドには日本よりも多いダムがありますが、水が不足しています。これらのことから、インドでは持続可能な社会のためにも、より統制された水資源管理が必要とされています。</p>

※執筆者の所属等はその当時のものです。